

志教育の視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
--------	----------------------

活動名	SS探究Ⅰ「大崎耕土フィールドワーク」、「おおさき小中学生自由研究チャレンジ交流会」等
教科・領域等	総合的な探究の時間、等
活動学年等	1学年、2学年
ねらい	「大崎耕土フィールドワーク」は、1学年SS探究Ⅰ（総合的な探究の時間）の学習の一環として取り組むことで、世界農業遺産としての大崎耕土に関する興味関心を高めるとともに、自然科学・農学・工学的な視点で課題を設定し、資料を活用しながら探究する態度を育成することをねらいとする。また、「おおさき小中学生自由研究チャレンジ交流会」とともに、地域との連携を深めコミュニケーションを図ることで地域の活性化の一助とする。

【活動内容】

1 キャッチフレーズ「問い：きみの夢を探し究めよ。」

古川高等女学校創立から数えて100有余年、県内公立学校初の中高一貫校として今年度で20周年を迎えた本校ですが、今年度のキャッチフレーズは高校3年の高橋兎月さんが提案した「問い：きみの夢を探し究めよ。」に選ばれました。このキャッチフレーズにした理由は「『探究』という言葉は、本校の特徴であるSSHの活動はもちろん、夢をひたむきに追いかける黎明生の姿にぴったりだから。また、問いかけるような表現によって、自らの夢を自分に問いかけ、更なる躍進に向けて学校生活を送れるような印象を与えられると考えた。」ということでした。このキャッチフレーズのもと、生徒一丸となって、未来の黎明の土台となるように諸活動に励んでいます。



2 高校1年・SS探究Ⅰ「大崎耕土フィールドワーク」

6月25日、初夏の風薫る中、「蕪栗沼干拓」「江合川水管理」「岩出山」「エネルギー」「農業・醸造業」「生物研究」等の9つのコースに分かれてフィールドワークを行いました。これは1学年SS探究Ⅰの学習の一環で毎年行っており、今年はさらに中高接続の観点から中学3年生と合同で実施しました。

治水や利水といった水管理をテーマに、世界農業遺産大崎耕土に関する興味関心を高めるとともに、自然科学・農学・工学的、さらには人文社会的な視点で課題を設定し、資料を活用しながら探究する態度を育成することをねらいとして実施したものです。現場に行かないと得られない情報を持ち帰ろうと、どの生徒も意欲的に参加していました。

〈蕪栗沼干拓コース〉見学地

萱刈潜穴／八寸筒／蕪栗沼／田尻総合支所

〈品井沼干拓コース〉見学地

鎌田記念ホール／鶴田川越水堤／元禄潜穴／明治潜穴



〈岩出山コース〉見学地
あ・ら・伊達な道の駅
／凍り豆腐製造所／内川



3 第4回おおさき小中学生自由研究チャレンジ交流会

10月6日（日）、大崎生涯学習センター（パレットおおさき）を会場に、第4回おおさき小中学生自由研究チャレンジ交流会を開催しました。当日は審査委員長の宮城教育大学 池山名誉教授、SSH運営指導委員長の東北大学 村松教授など多くの来賓を迎え、開会行事では高校2年生の12の班が自分たちの取り組んでいる課題研究について、現時点までまとめた内容を発表しました。その後、応募のあった17点のうち、12点について小中学生のみなさんが発表しました。発表後は高校生やティーチングアシスタントの大学生からの質問にも答え、高校や大学の先生からも助言や激励の言葉をいただきました。日常的なことに疑問を持って問いを設定した研究、実験やインタビュー調査を行って詳しく調べた研究など創意工夫が見られるものでした。

最優秀賞には「カジカはなぜ死んでしまったのか」、優秀賞には「かき氷の味は同じなのか、違うのか?」「停電時、ペルチェ素子で猫は快適に過ごせるか」「あなたの体内で進行中のメイラード反応」「リコーダーの演奏における息圧とピッチの関係」「プラナリアの記憶と学習に関する研究」の5点が入賞し、どの研究も、データベース等を調べながら丹念に結論を導いたユニークで素晴らしい研究でした。参加者の皆さんの「なぜ?」を形にしようという前向きな姿に、本校の生徒達も大いに刺激を受けていた様子でした。



4 公開授業研究会開催「探究的な学びとしての『気づき』『問い』『確かめ』を促すコンピテンシーベースの授業づくり」

11月8日（金）、本校を会場に令和6年度公開授業研究会【SSH研究開発報告会授業公開】が開催されました。当日は中高の国語・数学・英語・地歴公民・理科・芸術（音楽）の6教科において、グループワークやタブレット端末を使った授業公開が行われ、県内外の小・中・高等学校及び東北大学や宮城教育大学の先生方など30名ほどの先生方をお迎えして公開授業が行われました。

その後、全体会では「探究的な活動を通して『気づき』を深め、知を創造するコンピテンシーベースの授業づくり」と題して、東京大学大学院教育学研究科の藤村宣之教授による講演会が行われ、国際的な学力調査に基づき日本の生徒が苦手とする不定形問題（正解がない、またはたくさんあるような問題）の重要性について、また「気づき」を深め、学びを深めるための探究的な活動などについて、具体的な実践例を紹介していただきながらご講演をいただきました。また、その後は教科ごとに教員研修会を行うなど、有意義な一日となりました。

